

## 第2回富士見市男女共同参画社会確立協議会会議録

○日 時 平成21年6月30日（火）10:00～12:50  
○場 所 市長公室  
○出席者 〈委員〉金子（美）、金子（典）、野口、森田、吉川、神保、  
高橋（秀）、横田、嶋、金子（眞）、岩崎  
〈専門委員〉小西  
〈事務局〉金子、山岸、外澤、関根

○開 会 高橋会長

○講 義 (1) 『男女共同参画社会の現状と課題』

講師：埼玉県男女共同参画推進センター

事業コーディネータ 瀬山紀子氏

<概要>

- ・今年、男女共同参画にとって女子差別撤廃条約30周年や男女共同参画社会基本法制定10周年という節目の年で多くの情報が公開されているので、世界や国を動きをみて計画の検討をする必要がある。
- ・日本の男女平等はGEM（ジェンダーエンパワメントメジャー）をみても、54位と先進諸国の中で極端に低い。男女の賃金格差、決定権をもてる場所に女性が少ない（議員、審議会など）ことが課題だと思う。
- ・富士見市の市民意識調査では「男女共同参画」について認知度の低さが率直に現れていた。これは、男女共同参画という言葉自体が分かりづらく、また使用している用語も分かりづらいということが認知されない要因の一端としてある。例えば、DV（ドメスティック・バイオレンス）は、これまで家庭の問題とされてきた内容を『社会問題』として認識させるためにわざわざ名前をつけたものである。名づけの力により、夫婦喧嘩だと考えられてきた行為は、構造的な男女の力関係をベースに普遍的に起きている社会問題として捉えられるようになった。
- ・DVは、夫という経済的・社会的に力をもった人と、もたない人との権力関係を生み出してしまう社会構造がある。女性の多くは、社会的な地位や経済的な基盤がないため、家を出たら生活ができない。女性が、経済的な力をどうつけていくのかという課題は、個人1人で解決できる問題ではないので、こういったことも根本から考えていくことが必要ではないか。
- ・男女共同参画の視点で社会の実態を見てみると、将来に対する不安

感が高まっており、特に 30 代の人を中心に自殺者が増えている。  
1985 年から男女雇用機会均等法が制定され、働く女性は増えたが、働き方はパート、アルバイト、派遣がほとんどである。年越派遣村の報道では、男性が非常に多く取り上げられたが、非正規雇用は本来女性の問題である。女性が職を失っても問題にならないが、男性が職を失った時には即問題になるという現実。これはどういうことなのだろうと、考えることも必要。

- ・男女共同参画がこれまでの 10 年間でやってきたことを振り返り、もう 1 度基本に立ち返って、21 世紀の新しい方針は何だったのか。その中で、まだ達成が出来ていないことや、これから考えるべきことは何なのかを審査しながら考えなければいけない。

## (2) 『富士見市の男女共同参画のあゆみ』

講師：富士見市男女共同参画社会確立協議会  
会長 高橋秀子氏

### <概要>

- ・51 年前、都心で働く労働者のための団地の草分けだった鶴瀬団地に引っ越してきた。当時、子育ての環境も整っておらず、その度に問題の解決に奔走した。
- ・女性は家事、育児に専念するのが当たり前とされた時代、県からの移動図書館が団地に来ていた。時には、『女性が昼間から本を読んで…』と非難されたこともあったが、多くの女性が利用した。その後、移動図書館を市が譲り受け、女性たちが積極的に手伝いをする中で、昭和 42 年からおかあさんの生活記録を発行するようになった。富士見の女性の活動は、このあたりから始まったように思う。この発行は 10 年間続き、女性が生活者の視点から、地域を見るという共通の意識を持つことに繋がった。
- ・昭和 56 年、市民福祉部婦人青少年課婦人係がみずほ台コミュニティセンターに設置された。拠点が出来て、夜に講座を実施するなどの取組が出来たことは大きかった。
- ・翌年の昭和 57 年、婦人問題懇話会が開催され、福祉、老人問題、子どもの問題などのさまざまな分野について、婦人問題の視点から検討した。市民の手作りで企画・運営を行い、報告集も作成できたことは大きな成果であった。解散後は『女性問題啓発事業企画運営委員会』と名称を変更し、これが現在の『男女共同参画推進会議』に繋がっている。
- ・1998 年、現男女共同参画ふじみ 2000 年プラン策定のための取組

みに着手。当時はまだ参考にするものもあまりなく、手探りの状態で大変苦労した。作業部会に分かれて分野ごとに計画の案を作ったが、このときの経験が今、糧になっている。

- ・計画を策定した翌年の昭和 13 年、ふじみ女性議会が開催された。女性議員の質問に、行政が 1 つひとつ丁寧に、そして誠実に回答してくれた。この議会は、生活者としての女性の視点がとてもよく反映された素晴らしいものだったので、さらに現役の女性議員が増えてくれることを望んでいる。
- ・これからの男女共同参画の推進に寄せて、時代の変化に敏感な視点をもって策定にあたりたいと考えている。また、昨年、念願の男女共同参画推進条例が制定され、推進基盤が出来た。しかし、私たち市民が必要性を意識せずにいると、行政の体制に変化があった時など、男女共同参画の推進が滞ってしまう可能性もあると思う。条例の理念を大切に、今後も男女共同参画の推進が円滑に継続できるように、気を引き締めて、推進に立ち向かう市民の意識をプランに活かしていきたい。
- ・最後に、今、急激に男性が地域に帰ってきているが、急には家庭や地域に溶け込めない。そんな男性の視点も、ぜひプラン作りに取り入れていけたら良いと思う。

○報告と確認 (1) 市内連絡会議の進捗状況と次回確立協議会の内容について

事務局) 現在、全課にかけた計画に関する調書についてまとめの作業中。

次回の確立協議会では、項目の柱立てについて検討をお願いしたい。調査結果をもとに、資料を作成し、事前に送付させていただく予定。

○次回の協議会開催日について

平成 21 年 7 月 31 日 (金) 午前 10 時～

市長公室

○資 料

- ・次第
- ・レジュメ 男女共同参画社会の現状と課題について
- ・レジュメ 富士見市の男女共同参画のあゆみ

○閉 会 横田副会長